

●テーマセッション(80分):社会構成主義と組織研究

「組織研究における社会構成主義の展開」

◎高橋正泰（明治大学 経営学部 教授）<司会>

四本雅人（長崎県立大学 経営学部 准教授）

高木俊雄（昭和女子大学 グローバルビジネス学部 准教授）

研究成果報告形式

〔概要〕

本セッションは、社会構成主義(social constructionism)と組織研究について議論する企画です。社会構成主義による組織研究アプローチは、「組織ディスコース分析」、「ストーリーテリング」、「脱構築」、「ポスト構造主義」といった表現で行われてきています。また、社会構成主義は、20世紀を特徴づける社会を規定する客觀性や社会の深層にある法則性、そして究極的な心理の探究というパラダイムによるモダニズムに対する挑戦であるポストモダニズムに位置づけることができます。社会構成主義が本格的に提唱されたのは Gergen(1973)であり、Gergen & Gergen(1984,1986)、Gergen(1985)、および Sarbin(1986)が大きな貢献をしてきました。さらに、社会学ではその基本的な考え方は、知識社会学を展開した Berger & Luckmann(1966)に遡ることができます。現実が社会的に構成されるとすれば、社会システムとしての組織もまた社会的に構成されるといえるでしょう。このような「組織が社会的に構成される」という主張こそが、社会構成主義の基本的視点となります。このような理論の歴史的背景を念頭において、社会構成主義について考察し、組織の理論にとってどのような意味そして貢献ができるかを検討することが本セッションの目的です。

報告者の四本雅人先生は、解釈的組織文化研究やストーリーテリング、組織ディスコースの研究を推進しています。報告では、90年代に登場し文化を意味論的に捉えていく解釈的組織文化研究がどのようなものであり、それが後の社会構成主義に立脚するストーリーテリングや組織ディスコースの研究にどのような形で継承、あるいは展開されていったのかを検討していきます。

もう一人の報告者である高木俊雄先生は、組織の新制度学派の研究では広く知られている研究者で、組織の制度の側面から組織ディスコースやストーリーテリング、そしてクリティカル・マネジメント・スタディ(CMS)など、社会構成主義に則った研究を推進しています。報告では組織における正統性の構築について、社会構成主義の観点から検討します。

〔参加者へのメッセージ〕

10月19日(土) 10:30~11:50 開催(A会場:1-301)

本セッションは、近年ポストモダニズム、ポスト構造主義、脱構築、組織ディスコースについて社会構成主義にもとづいた組織研究についての理解を深めるセッションになると確信しています。組織の質的研究方法論について興味を持っている研究者の参加をお待ちしています。